



## 令和6年度 第3回 新栄高等学校学校運営協議会 議事録

開催日：令和6年12月20日（金）15:45～17:00

場 所：新栄高等学校 会議室

出席者：学校運営協議会委員4名（欠席3名）校長、副校長、教頭、事務長、各GL

次 第：

- 1 校長挨拶・新規委員紹介
- 2 令和6年度学校評価中間報告（各GL）

（管理運営グループ）

- ・防災マニュアルの改訂及びダイジェスト版を配付した。
- ・みどり支援学校と合同で避難訓練を実施し、有事の際の動線や役割分担を明確にした。
- ・電子黒板が新たに設置されたが、管理・運用については徹底を図りたい。

（開発推進グループ）

- ・国際理解アンケートで生徒の興味・関心がどこにあるかを把握することができた。今後の活動に役立てたい。
- ・今年度、台湾交流を新規に開始した。12月10日には本校で台湾生徒訪問団の受入を行った。来年12月には本校が台湾を訪問する計画を立てている。韓国交流についても来年年明け1月に受入、8月には訪問する予定である。
- ・地域清掃活動を実施した。今後も複数回予定している。
- ・学校説明会・見学会では本校の魅力を中学生及びその保護者等に発信することができた。

（学習支援グループ）

- ・選択科目設定に向けた検討を重ねた。
- ・授業改善に向けた1人1台端末の効果的な活用に関する研修会を月に1回程度、実施することができた。
- ・総合的な探究の時間でJICA職員を招聘して講演会を実施するなど多文化教育を推進した。

（生徒支援グループ）

- ・服装・頭髪指導、立番指導等を適切に行った。
- ・SNSの不適切な使用等、人間関係に係る問題行動が目立つ。
- ・近隣苦情は減少したが、社会的モラル・マナーについて引き続き指導が必要である。

（生徒会グループ）

- ・学校行事では、生徒の主体的な取組を促すことができた。文化祭の公開範囲や金券の取り扱いについては、今後も検討していきたい。
- ・夏期合宿は弓道部のみの実施となった。部活動の活性化に取り組みたい。

（進路支援グループ）

- ・外部教育ツールを活用し、キャリア教育の推進を図ることができた。
- ・在県生徒の進路活動は多文化教育コーディネーターの役割が大きい。学校全体での支援体制の構築が喫緊の課題である。

### 3 質疑及び意見聴取

委員 A	<p>Q 在県生徒は同じクラスに固まって在籍しているのか。</p> <p>A 各学年2クラスに分けて、取り出し授業等の対応をしている。来年は在県生徒の定員が7名から10名となる。</p> <p>Q 職員高ストレス者の割合が増加したとのことだが、原因は何か。</p> <p>A 職員の多様な働き方、体調不良等による長期離脱、長時間労働等が原因と思われる。解決に向けて衛生委員会等を中心に検討を重ねている。</p> <p>Q 制服変更による学校の変化は男女比以外にあるか。</p> <p>A 盗撮被害が減少している。変更に伴う生徒の声も検討委員会で集約している。</p>
委員 B	<p>Q 多文化教育に係る交流事業等への参加生徒数が増加しているか。</p> <p>A 増加している。今年から台湾との交流を新規に開始し、交流の機会が増えた。来年の交流校訪問を見据えて、オンライン交流等を継続する予定である。また、東京横浜独逸（ドイツ）学園、韓国、ボツワナとの交流も継続する。</p>
委員 C	<p>Q 多文化教育に係るアンケート結果を見ると、8割程度の生徒が何らかの形で参加したいと回答しているが、来年度以降の予定がはっきりしていれば教えて欲しい。</p> <p>A 来年1月に韓国の受入、8月に韓国訪問、12月に台湾訪問を実施する予定である。</p> <p>Q 生徒の多様な進路について、どのような支援をしているのか。</p> <p>A 就職希望の生徒向けに外部講師を招請しての講演会実施や職業体験（インターンシップ）実施、進学希望者向けには進路ガイダンスの実施等の支援を行っている。</p>
委員 D	<p><b>【教育課程・学習指導】</b> 新たに発足した国際交流チームの活躍に期待したいと思います。そしてこの取り組みを、新栄高校の魅力につなげていただければと思います。また参加した生徒の意識変容がわかるようにアンケート形式に工夫をもたせ、単に「楽しかった」だけでなく、この経験を次にどう生かしたいのか、どうつなげていきたいのか、参加してどう変わったのかなど、生徒の声を積み上げられればと思います。</p> <p><b>【進路指導・支援】</b> 初めての在県生徒の進路支援について、ぜひ振り返りをお願いしたいと思います。特に気になったのは、在県生徒の日本語力不足と向上心のなさです。将来を見据えると、合格は通過点だということを生徒たちに理解させる必要があります。高校在学中にまじめに日本語学習に取り組むこと、そして日本語を使う機会をもっと増やすことを考える必要があると感じています。ぜひ、学校全体で支援体制を構築していただきたいと思います。</p>
委員 E	<p>学校評価報告書の中の、災害時対応マニュアル作成の項目に、新栄分教室との連携について記載いただき、ありがとうございました。本校の生徒が、新栄高校の生徒さんと一緒に避難できたことを大変うれしく思います。生徒の中には、大勢の方が一斉に階段を下りてくる中で、委縮して動けなくなる子も予想されたため、本当に全員で避難できるのか、他の生徒さんの妨げにならないのかと、分教室の職員も心配していたところでした。そのような中、新栄高校の生徒さんが階段に通じる扉を押さえて、子ども達に先に避難するように声をかけてくださったと聞きました。このような自然な心配りや思いやりの行動がとれる生徒さんは、素晴らしいですね。</p> <p>この経験から、子ども達も自分たちで何かできることはないかと考えたようです。「避難階段が苔で滑らないように、デッキブラシで磨いたらどうか」という意見もでていようです。これから少しずつ実践に結び付けられたらと思います。貴重な体験と学びをいただいたことに、心から感謝いたします。</p>

#### 第3回地域連携部会 16:45～17:00

☆学校より

・台湾国立溪湖高級中学の受入に係る本校の取組を映像で紹介

成果として、授業等で学んだ外国語を実際に使用し、コミュニケーション可能なレベルにあるかどうかを検証する良い機会となった。また、台湾の生徒と直接交流することで、異文化理解や国際理解の深化・充実に繋がった。今後も継続して機会を創出することで、交流事業の活性化に繋げたい。

また、本校の特色を地域や中学生・保護者等に発信することにより、本校への理解を深めていただき、志願者増や志願者層の変化を期待したい。